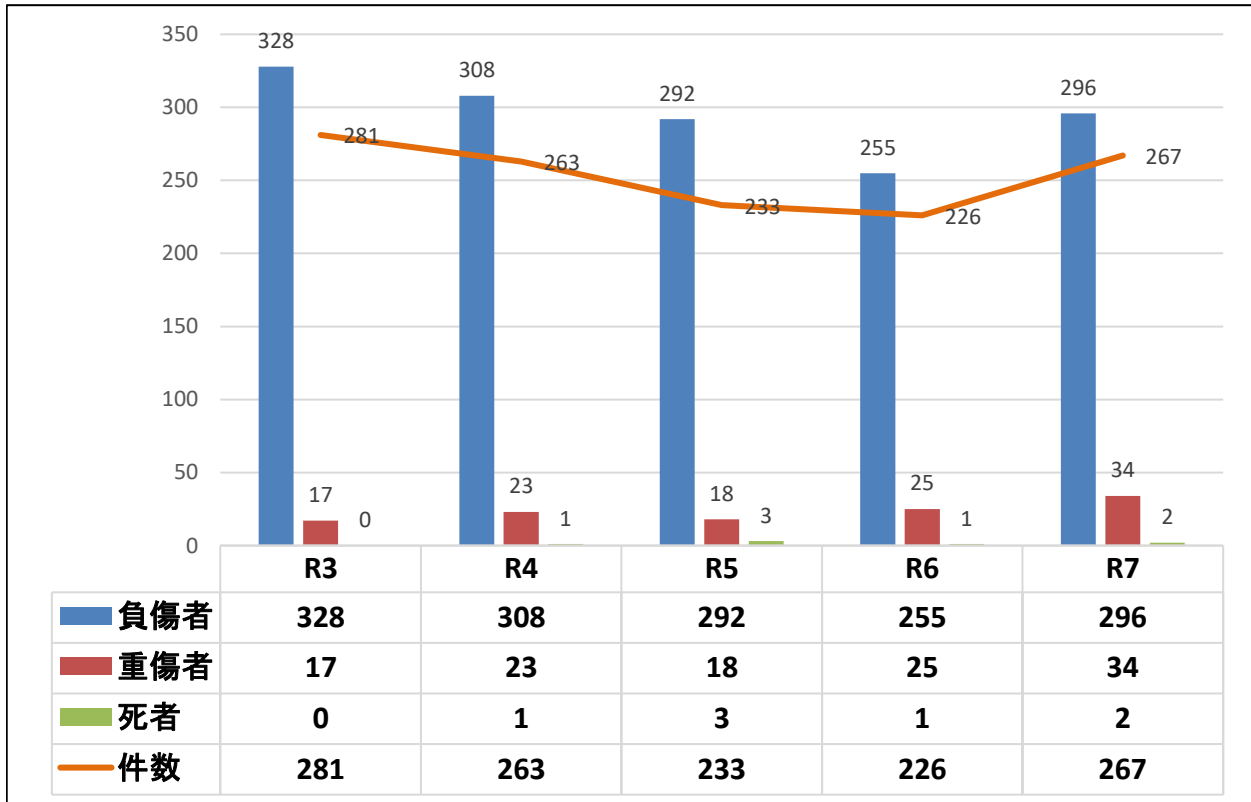


令和 8 年 4 月

天童警察署管内の交通事故等の実態（過去 5 年間）

1 過去 5 年間における交通事故発生状況



- 負傷者1,479人、重傷者117人、死者7人、件数1,270件
- 件数1,270件中、死亡事故7件、重傷事故111件、軽傷事故1,152件

2 過去 5 年間における交通死亡事故の発生状況

※ 高齢は65歳以上、一般は25～64歳、若年はそれ以外の年齢をいう。令和8年を追加。

件数	死者数	年	月日	曜日	時間	昼夜・天候	事故形態	道路名	道路形状	1当(年齢・居住地)	2当(年齢・居住地)	概要
1	1	R4	8月17日	水	19:11	夜・晴	人对車両	市道	交差点付近	高齢・天童市	高齢・天童市	軽乗が横断中の歩行者(死亡)に衝突
2	2		9月18日	月	12:30	昼・晴	車両単独	農道	交差点付近	高齢・天童市		農耕車(死亡)が路外逸脱
3	3	R5	12月12日	火	17:04	夜・曇	人对車両	県道	交差点	高齢・東根市	高齢・天童市	軽乗が横断歩道横断中の歩行者(死亡)に衝突
4	4		12月17日	日	23:28	夜・雪	人对車両	市道	交差点	一般・東根市	一般・天童市	普乗が路上横臥者(死亡)に衝突
5	5	R6	6月22日	土	6:17	昼・晴	車両単独	国道48号	単路	高齢・天童市		普貨(死亡)が工作物に衝突
6	6	R7	10月17日	金	16:00	昼・晴	車両単独	農道	単路	高齢・天童市		軽車両(死亡)が路外逸脱
7	7		12月12日	月	22:03	夜・晴	車両相互	主要地方道	交差点	若年・天童市	高齢・天童市	信号無視の原付(死亡)が普乗に衝突
8	8	R8	3月10日	火	13:03	昼・晴	車両相互	市道	交差点	高齢・天童市	一般・天童市	一時不停止の普乗が準中貨に衝突

- 歩行者事故は3件で、すべて夜間。うち2件が横断中の高齢歩行者、1件が路上横臥。
- 車両単独事故は3件で、すべて高齢ドライバー。うち2件が農道における農耕車等。
- 車両相互事故は2件で、すべて交差点における出会い頭事故。
- 8件すべて、天童市民が関与している。

3 過去5年間における死亡・重傷事故の発生件数と分析結果に基づく重点課題

(1) 件数

118件

(2) 死亡・重傷事故の分析結果に基づく重点課題

ア 交差点での出会い頭を重点とした車両相互事故の抑止対策

- ・ 交差点における出会い頭、右左折時の事故防止
交差点でしっかり止まる等の広報、一時不停止・信号無視の取締り
- ・ 追突・正面衝突・車両単独事故の抑止
ドライバーに緊張感を与えるための見せる活動や速度取締り

イ 夜間の高齢歩行者横断中の事故抑止等の対策

- ・ 夜間の高齢歩行者横断中の事故抑止の対策
ドライバー側に対する注意喚起
歩行者側に対する注意喚起と夜光反射材の着用促進
横断歩行者妨害の取締り
- ・ 自転車利用者事故の抑止対策

ウ 高齢者対策

- ・ ドライバー側、歩行者側両面における交通ルールの遵守
- ・ 身体機能の低下や危険の自覚、運転を控えるなどの防衛策
- ・ 自治体等における参加体験型の交通安全教室の推進
天童市内は交差点事故が多く、天童市民が多くの事故に関与していることの
広報（他人事の払拭）
- ・ 家庭・職場・地域ぐるみでのサポート体制の構築（運転免許の自主返納）
- ・ 道路・車両・公共交通機関等の環境整備
- ・ 農作業用車事故の抑止

(3) 周知すべき死亡・重傷事故の特徴

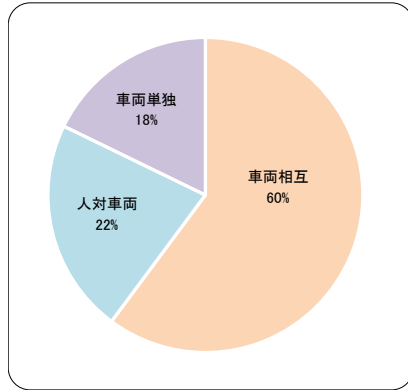
- 幹線道路と市道の発生割合が、ほぼ5:5
- 車両相互事故の7割が、交差点内や右左折を伴う事故
- 夜間の高齢歩行者横断中の事故が多く、歩行者事故は、3件に1件が重傷以上
- 高齢ドライバーの事故が4割。車両単独事故など重大事故に発展
- 第1当事者の約6割は、天童市民

4 交差点での出会い頭を重点とした車両相互事故の抑止対策

※ 死亡・重傷事故全118件、うち車両相互71件で分析

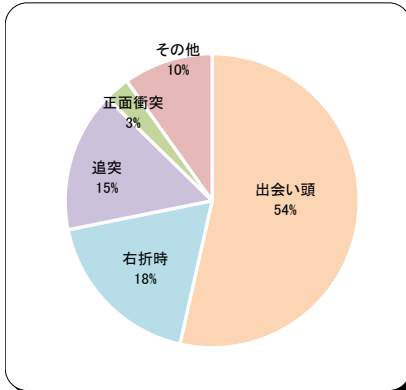
(1) 車両相互事故の状況

ア 全体の事故形態別



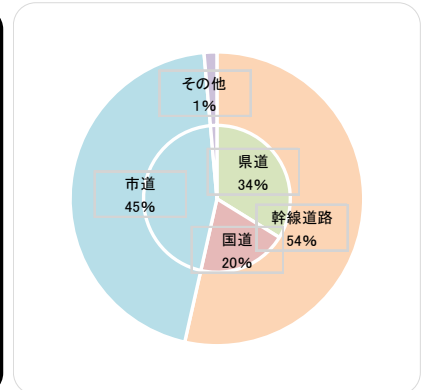
車両相互	71
人対車両	26
車両単独	21
計	118

イ 類型別



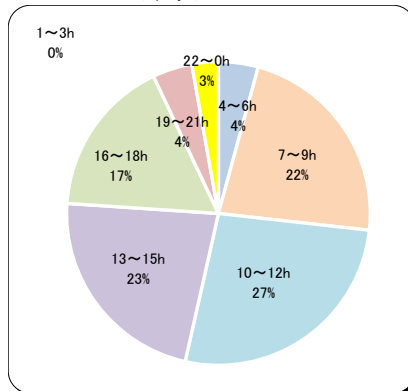
出会い頭	38
右折時	13
追突	11
正面衝突	2
その他	7
計	71

ウ 路線別



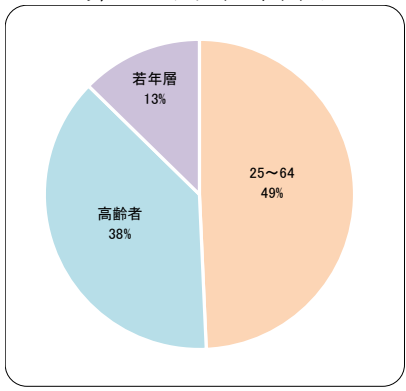
幹線道路	38
うち県道	24
うち国道	14
市道	32
その他	1
計	71

エ 時間別



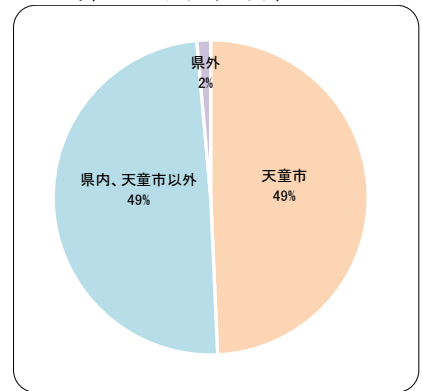
1~3h	0	13~15h	16
4~6h	3	16~18h	12
7~9h	16	19~21h	3
10~12h	19	22~0h	2
計	71		

オ 第1当事者年齢別



25~64	35
高齢者	27
若年層	9
計	71

カ 第1当事者居住地別



天童市	35
県内、天童市以外	35
県外	1
計	71

(2) 分析結果

- 全体の事故形態別では、車両相互で60%を占め、人対車両22%、車両単独18%となっている
- 類型別では、出会い頭54%、右折時18%と交差点等における事故で72%を占め、次いで追突15%となっている。
- 路線別では、国道・県道の幹線道路54%、市道45%となり、出会い頭・右折時等の事故は、幹線道路のみで76%、市道のみで76%を占める。
- 時間別では、午前7時から午後7時までの間で89%を占める。
- 第1当事者年齢別では、25歳から64歳までのドライバーで49%であり、高齢ドライバーが38%を占める
- 第1当事者居住地別では、天童市内49%、県内の天童市以外49%、県外者2%となっている。

⇒ 路線を問わず、出会い頭事故の抑止が必要
併せて、重大事故に直結する正面衝突事故、追突事故を抑止するため、
ドライバーに緊張感を与える活動が必要

(3) 対策内容

【重点】 交差点における出会い頭、追突事故を抑止する活動
(ドライバーから緊張感を持って運転してもらう活動の推進)

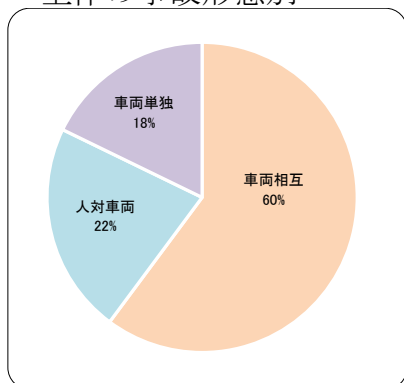
- 交差点での安全確認徹底の広報
= 出会い頭、右左折時事故の防止
- 速度を落とした安全運転、前後左右、目配り運転の広報
= 追突・正面衝突・車両単独事故の防止
- 啓発活動のキーワードは、天童市内は交差点が危ない！！
(駅や学校、大型商業施設周辺はもちろん、幹線道路も)
幹線道路は追突事故、片側1車線の幹線道路は正面衝突抑止

5 夜間の高齢歩行者横断中の事故抑止等の対策

※ 死亡・重傷事故全118件、うち人対車両26件で分析

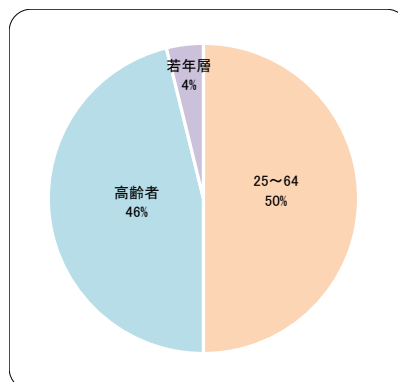
(1) 歩行者事故の状況

ア 全体の事故形態別



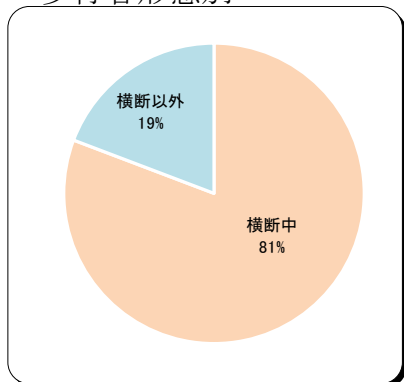
車両相互	71
人対車両	26
車両単独	21
計	118

イ 歩行者年齢別



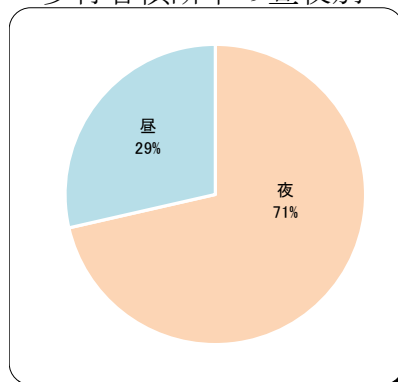
25~64	13
高齢者	12
若年層	1
計	26

ウ 歩行者形態別



横断中	21
横断以外	5
計	26

エ 歩行者横断中の昼夜別



夜	15
昼	6
計	21

(2) 分析結果

- 歩行者事故は、死亡・重傷事故全体の26件（22%）であるものの、軽傷を含めた全事故1,270件中の歩行者事故は92件であり、歩行者事故の28%が死亡・重傷事故の重大事故に直結している。
- 歩行者年齢別では、高齢者で46%を占める。
- 歩行者形態別では、横断中が81%となっており、横断中の事故は、夜間が71%を占める。
- 自転車利用者の事故は、全体1,270件中86件（6.8%）、うち14件（16%）が重傷となっている。

(3) 対策内容

【重点】 夜間の高齢歩行者横断中の事故抑止活動

- 歩行者に対する車両直前直後の横断禁止など、基本的な交通ルールを遵守させる活動・「ハンド・サイン」による横断の意思表示の徹底
- 高齢者を中心とした夜光反射材の着用促進
- ドライバーに歩行者事故の危険性を認識させ、歩行者保護意識を醸成する活動
- 自転車利用者に対する交通ルールの遵守（一時不停止・携帯電話使用など）、ヘルメット着用促進に関する指導 = 重大事故の未然防止

6 高齢者対策 ※死亡・重傷事故全118件、うち高齢ドライバー事故49件で分析

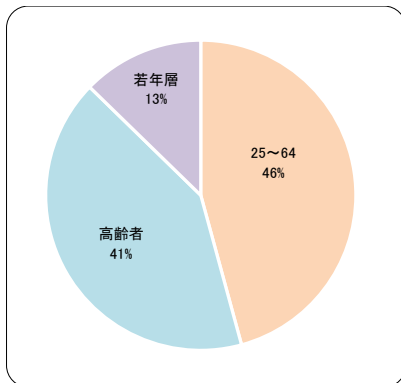
(1) 山形県内の運転免許保有状況

	R3	R4	R5	R6	R7
総数	747,400	742,667	738,627	733,325	726,901
若年層	47,905(6.4%)	47,129(6.3%)	46,733(6.3%)	45,530(6.2%)	44,314(6.1%)
25～64	471,198(63.1%)	463,101(62.4%)	454,329(61.5%)	445,719(60.8%)	437,217(60.1%)
高齢者	228,297(30.5%)	232,437(31.3%)	237,565(32.2%)	242,076(33.0%)	245,370(33.8%)

- 運転免許保有者の総数は、年々減少している。
- 年齢別では、若年層・25～64までが年々減少している中、高齢者のみ年々増加している。

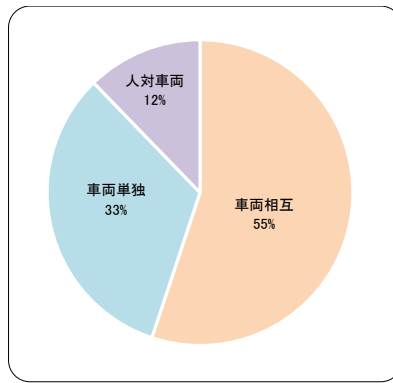
(2) 高齢ドライバー事故の状況

ア 全体の年齢別



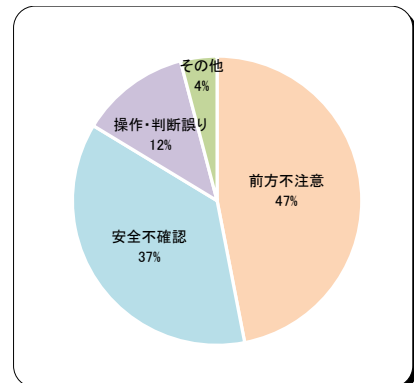
25～64	54
高齢者	49
若年層	15
計	118

イ 高齢者の事故形態別



車両相互	27
車両単独	16
人対車両	6
計	49

ウ 高齢者の事故原因別



前方不注意	23
安全不確認	18
操作・判断誤り	6
その他	2
計	49

(3) 分析結果

- 65歳以上の高齢ドライバーによる事故は、全体の41%を占める。
- 分析結果として、高齢者の生活圏における発生割合が高く、事故形態別では、車両相互55%、車両単独33%、人対車両12%となっている。
- 事故原因別では、前方不注意・安全不確認で84%を占め、操作・判断誤り（ブレーキとアクセル踏み間違い、交差点ではないと思ったなど）で12%と多くなっている。
- 天童市内全体の車両相互事故38%、歩行者事故の歩行者側46%を高齢者が占める。

(4) 対策内容

【重点】ドライバー側、歩行者側両面における交通ルールの遵守

（身体機能低下や危険の自覚、運転を控えるなどの防衛策）

- 自治体等における参加・体験型の交通安全教室の推進（他人事の払拭）
- 家庭・職場・地域ぐるみでのサポート体制の構築（運転免許の自主返納）
- 道路・車両・公共交通機関等の環境整備
- 農作業用車事故の抑止